

令和6年度 全国学力・学習状況調査の松本市における結果〔概要〕

調査概要

- ◇調査対象：小学校第6学年、中学校第3学年
- ◇調査実施日：令和6年4月18日（木）
- ◇調査内容：① 教科に関する調査〔国語、算数・数学〕
② 学習状況等に関する質問調査（児童質問調査、生徒質問調査）
- ◇今年度調査の特徴： 質問調査については、今年度からすべての参加校において、一人一台端末を利用して実施された。教科に関する調査については、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のメッセージが込められた出題であった。

教科に関する調査結果概要

- ◇平均正答率： 平均正答率は、すべての教科（小学校国語・算数、中学校国語・数学）において全国（公立）と同程度である。
- ◇領域別状況： 領域別の平均正答率は、小学校国語「読むこと」、中学校数学「関数」において全国より高く、小学校算数「数と計算」、中学校国語「書くこと」において全国よりやや高い状況である。
- ◇正答率の割合： 正答率4割以下の児童生徒の割合は、すべての教科において、全国と比べてやや少ない。一方で、正答率8割以上の割合は、全国と同程度である。
- ◇問題形式： 問題の形式は、選択式、短答式、記述式の3種類である。記述式では、根拠を明らかにして記述したり、答えを導く方法を説明したりする問題が出題されている。小学校・中学校ともにすべての教科の記述式問題において、無解答率が全国より低い。

公表に当たっての基本方針

- 本調査は児童生徒に育成する資質・能力の一部を調査したものであることにご留意ください。また、国語、算数・数学の2教科のみの調査であるため、学習指導要領全体を網羅しているものではありません。
- 教科に関する調査の結果（2頁～）については、平均正答率7～8割程度であった調査問題と、5割未満であった調査問題の中から特徴的なものをそれぞれ1つずつ掲載しました。また、全国との比較を示す際には、正答率の差が±2ポイント未満の場合は「全国と同程度」、差が2ポイント以上の場合は「上回る」「下回る」としました。
- 学習状況等に関する質問調査の結果（10頁～）については、全体的な傾向や主な特徴等をまとめました。全国との比較を示す数値については、その差を「ポイント」という表現を使っています。（例：全国が30％、松本市40％の場合、松本市は全国を「10ポイント上回る」と表現しています。）
- 国立教育政策研究所のホームページのデータを利用して作成しています。また、一部の画像等は、「令和6年度全国学力・学習状況調査」の調査問題より引用しています。

問い合わせ先 【部課名】 松本市教育委員会 学校教育課 学校支援室
【連絡先】 電話：0263-33-4397

1 教科に関する調査結果

1(1) 小学校国語

<今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

平均正答率は全国と同程度である。正答率4割以下の児童の割合は全国に比べてやや少なく、正答率8割以上の児童の割合は全国と同程度である。「読むこと」に関する正答率は、全国を上回っている（下記①）。一方、「話すこと・聞くこと」に関する正答率は、全国を下回っている（下記②）。

① 「人物像を具体的に想像すること」に関しては身についている。平均正答率は7割以上で、全国を上回っている。

調査問題 ③ 二 (2)

【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したものと、適切なものを解答する選択式問題

読むこと

原さんの学級では、物語を読み、心に残ったところについて説明することにしました。原さんは、「オニグモじいさんの朝ごはん」という題名の物語を選んで読んでいます。

原さんは、【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめるために、同じ物語を読んだ島さんと話し合うことにしました。

【話し合いの様子】

原さん 私は、オニグモじいさんがハエの女の子に、「わしみたいなクモが、生きるために食っているのはな」と言ってやめたところが心に残ったんだ。

島さん なぜ、そこが心に残ったの。

原さん この言葉にオニグモじいさんの迷いが表れていると思ったからなんだ。「大きな目をひらいて、いっしょうけんめいに」とあるようなハエの女の子のすなおな姿を見て、自分がハエの女の子を食べる存在であることを、どのように話すか迷っているのではないかな。

島さん そうか。それで結局、オニグモじいさんは、「わしが食って生きているのはな、朝日のひかりだよ」と言ったんだね。

原さん そうだね。物語のいろいろなところを結び付けて考えると、心に残った理由がはっきりしてきたよ。島さんは、どこが心に残ったの。

島さん 私は、「きれいな虹がかんで見えるだけ」という表現がいいなと思ったよ。もう一度物語を読んで、心に残ったところとその理由を考えてみよう。

【話し合いの様子】で、原さんは【物語】を読んで考えたことを話しています。原さんは、物語の何に着目して話していますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 登場人物の気持ちや考え方
- 2 作者が伝えていること
- 3 物語の構成
- 4 表現の効果

(正答) 1

- ② 「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」に関しては課題がある。平均正答率は5割未満で、全国を下回っている。

調査問題 ① 二 (2)

オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを解答する選択式問題

話すこと
聞くこと

【オンライン交流の様子の一部】

深緑小学校 村木さん 海風小学校 和田さん

② はじめまして。深緑小学校の村木です。今日は、とても楽しみにしていました。

① はじめまして。海風小学校の和田です。よろしくお願いします。

③ メールありがとうございます。図書委員のことを知りたいということでしたので、まず、海風小学校の図書委員会の取り組みのしようかいで、読書イベントが、月に1回、図書委員会で、クイズなどをして、私もそれに参加して、今まで読んだことがない分野の本を読みました。

④ セっかく教えてもらったのですが、だれが何をしているのかが分からなくなったので、もう一度教えてもらえませんか。

⑤ 説明がよくなかったですね。話し方を変えますね。図書委員会が、月に1回、クイズなどの読書イベントをしてくれます。私もクイズに参加しました。今まで読んだことがない分野の本を読むことができました。

⑥ よく分かりました。おもしろそうですね。

⑦ そうなんです。先月の読書イベントでは、図書委員がさまざまな分野から本を選び、本の内容からクイズを出題してくれました。これが、実際に出题されたクイズが書かれたカードです。私も参加することで、科学の本に興味をもつことができました。

和田さんは、村木さんの発言⑥を受けて、発言⑦のように話しました。和田さんの話し方のくふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 相手が興味をもっていることに気づき、相手の言葉を引用して話した。
- 2 相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物を示しながら話した。
- 3 相手が興味をもっていないことに気づき、言葉の意味を説明しながら話した。
- 4 相手が興味をもっていないことに気づき、自分の体験を加えて話した。

(正答) 2

<授業改善・充実に向けて>

①より、日常の授業において、複数の叙述を結び付け、それらを基に登場人物の性格や考え方などを総合して判断する言語活動を大切にしていることが、人物像や物語の全体像を具体的に想像する力の育成に結びついていると考えられる。

一方、②より、自分の考えが伝わるように表現を工夫することについては課題がある。交流場面などで実際に話す際には、聞き手のうなずきや表情などにも注意しながら、聞き手に合わせて即興的に話し方を工夫することが大切である。

1(2) 中学校国語

<今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

平均正答率は全国と同程度である。正答率4割以下の生徒の割合は全国に比べて少なく、正答率8割以上の生徒の割合は全国に比べてやや多い。思考力、判断力、表現力等をみる問題の正答率は、すべての問題において全国と同程度か、全国を上回っている（下記①、②）。

- ① 「目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること」に関しては身についている。平均正答率は約8割で、全国と同程度である。

調査問題 3

物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを解答する選択式問題

書くこと

佐藤さんは、国語の時間に、「体験をもとに、身近なものを登場人物にした物語を書く」という学習に取り組んでいます。次は、佐藤さんが構想をまとめた【ノートの一部】です。

【ノートの一部】

〈登場人物の設定〉

- ・「僕」……紙の辞書。語り手。
- ・「君」……紙の辞書の持ち主（中学生）。

〈もとにする体験〉

- ・小学生のとき、紙の辞書を親に買ってもらった。
- ・使い始めた頃、紙の辞書の引き方が難しくて困った。
- ・最近はオンライン辞書ばかり使っている。
- ・紙の辞書を久しぶりに使った。

〈物語を通して伝えたいこと〉

紙の辞書を久しぶりに使って気付いたよさ。

〈各場面で伝えたい「僕」の心情〉

出番のない寂しさ。

忘れられるかもしれない不安。

久しぶりの出番で感じた喜び。

次の出番への期待。

4 3 2 1

佐藤さんは、【ノートの一部】の〈もとにする体験〉に書いた情報の中から、「最近はオンライン辞書ばかり使っている。」と「紙の辞書を久しぶりに使った。」を取り上げることにしました。その意図として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 物語の読み手に、紙の辞書を初めて手にしたときの気持ちがより明確に伝わるようにするため。
- 2 物語の読み手に、紙の辞書よりもオンライン辞書の方がよいことがより明確に伝わるようにするため。
- 3 物語の読み手に、紙の辞書を久しぶりに使って気付いたよさがより明確に伝わるようにするため。
- 4 物語の読み手に、紙の辞書の引き方が難しくて困ったことがより明確に伝わるようにするため。

(正答) 3

- ② 「文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること」に関しては課題がある。平均正答率は4割未満で、全国と同程度である。

調査問題 ② ー 本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを解答する選択式問題

読むこと

「図 さまざまな形の葉」の本文中での役割を説明したものとして適切なものを、次の1から4までの中から二つ選びなさい。

- 1 実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるように補助する役割。
- 2 実際の葉の形とそれを表す言葉とを結び付けて捉えられるようにする役割。
- 3 葉の形を表す言葉を二つのグループに分けるやり方が複数あることを示す役割。
- 4 葉の形を表す言葉の中では厚み方向の形容が限定的であることの根拠を示す役割。

(正答) 1、2

<授業改善・充実に向けて>

①より、日常の授業において、「題材の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討」、「考えの形成、記述」、「推敲」、「共有」に関する各指導事項について、意図的・計画的に指導を重ねてきたことが、資質・能力の育成に結びついていると考えられる。

一方、②より、説明的な文章を読むときには、文章の特徴（文章の中心となる部分とそれを支える例示や引用などの付加的な部分とが組み合わされていたり、事実を述べた部分と意見を述べた部分とで構成されていたりすること）を踏まえて読むことが大切である。

1 (3) 小学校算数

<今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

平均正答率は全国と同程度である。正答率4割以下の生徒の割合は全国に比べてやや少なく、正答率8割以上の生徒の割合も全国に比べてやや少ない。知識及び技能をみる問題（下記①）の正答率は、全国を上回っている。一方、思考力、判断力、表現力等をみる問題（下記②）の正答率は、全国を下回っている。

- ① 「除数が小数である場合の除法の計算をすること」に関しては定着している。平均正答率は7割以上で、全国を上回っている。

調査問題 ④ (1) $540 \div 0.6$ を計算する短答式問題

数と計算

あいなさんは、家から学校までの歩数を求めます。家から学校までの道のりは、540 m です。あいなさんの歩はばを 0.6 m とします。
家から学校までの歩数は、 $540 \div 0.6$ の式で求めることができます。
 $540 \div 0.6$ を計算しましょう。

(正答) 900

- ② 「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述すること」に関しては課題がある。平均正答率が約4割で、全国を下回っている。

調査問題 ⑤ (3) 折れ線グラフから、桜の開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを解答する記述式問題

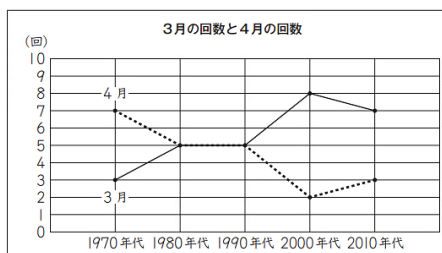
データの活用

こうたさんは、1970年代から2010年代について、C市の桜の開花日の月を調べました。すると、1970年代以降は、開花日の月が3月と4月のどちらかであることがわかりました。

そこで、開花日の月について、各年代の3月の回数と4月の回数を、下のよう

に折れ線グラフに表しました。
折れ線グラフで、3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代はいつですか。また、その年代について、3月の回数と4月の回数のちがいは何回ですか。

ちがいが最も大きい年代と、その年代について、3月の回数と4月の回数が何回ちがうかを、言葉と数を使って書きましょう。



(正答例) 3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代は、2000年代で、2000年代の3月の回数と4月の回数のちがいは6回です。

<授業改善・充実に向けて>

①より、日常の授業において、小数の乗法及び除法の計算が正確にできることを大切にしてきたことが、知識及び技能の定着に結びついていると考えられる。

一方、②より、表やグラフを用いて身の回りの事象について考察することについては課題がある。児童の興味・関心や問題意識に基づき、必要なデータを収集し、分類・整理したり、表や適切なグラフに表したりしたものをもとに示されることを考察するなど、統計的に問題を解決できるようにすることが大切である。

1 (4) 中学校数学

<今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

平均正答率は全国と同程度である。正答率4割以下の生徒の割合は全国に比べてやや少なく、正答率8割以上の生徒の割合も全国に比べてやや少ない。関数領域の正答率は、知識及び技能をみる問題（下記①）については8割以上だが、思考力、判断力、表現力等をみる問題（下記②）については2割未満である。

- ① 「二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈すること」に関しては定着している。平均正答率が8割以上で、全国を上回っている。

調査問題 8 (1)

ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを解答する選択式問題

関数

第一中学校の文化祭では、会場の体育館を暖めるために、灯油を燃料とする大型のストーブを設置します。文化祭当日は、体育館を6時間使用します。文化祭の実行委員の結衣さんは、18Lの灯油が入ったストーブの使用計画を立てることになりました。ストーブの説明書には、次の情報が書かれています。

説明書の情報

ストーブの設定	強	弱
1時間あたりの灯油使用量(L)	4.0	2.5

結衣さんは、ストーブを6時間使用して、18Lの灯油をちょうど使い切るように、「強」と「弱」の設定の組み合わせを考えることにしました。そのために、18Lの灯油が入ったストーブの「強」の場合と「弱」の場合について、ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を調べることにしました。

そこで、結衣さんは、説明書の情報の1時間あたりの灯油使用量は常に一定であるとし、ストーブを使用し始めてからx時間経過したときの灯油の残量をyLとして、「強」の場合と「弱」の場合のxとyの関係をそれぞれ $y = 18 - 4x$ 、 $y = 18 - 2.5x$ と表しました。そして、この2つの式をそれぞれ $y = -4x + 18$ 、 $y = -2.5x + 18$ と表し直し、グラフをかきました。

ストーブの使用時間と灯油の残量の「強」の場合と「弱」の場合のグラフは、どちらも点Pでy軸と交わっています。点Pのy座標の値は、何を表していますか。下のアからエまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。

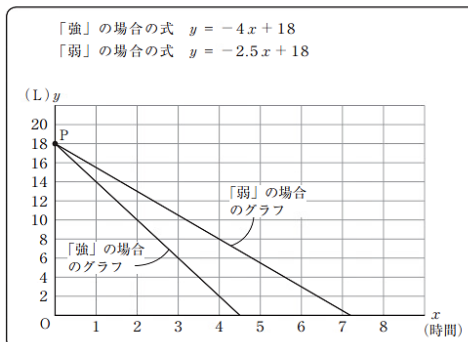
ア ストーブを使用し始めるときの灯油の残量

イ ストーブを使用し始めるときの時間

ウ 「強」の場合のストーブの1時間あたりの灯油使用量

エ 「弱」の場合のストーブの1時間あたりの灯油使用量

ストーブの使用時間と灯油の残量



(正答) ア

- ② 「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること」に関しては課題がある。平均正答率は全国と同程度であるが、2割未満である。

調査問題 ⑧ (2)

18 Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する記述式問題

関数

ストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18 Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何時間かを求める必要はありません。

ア 「強」の場合の式 $y = -4x + 18$ と「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$

イ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

(正答例) アを選択して
「強」の場合の式と「弱」の場合の式について、それぞれの式に $y = 0$ を代入し、 x の値の差を求める。

<授業改善・充実に向けて>

①より、日常の授業において事象の中にある関数関係を見いだし、数学的に表現・処理したものについて、日常の事象のどの部分にあたるのか考えることを大切にしていることが、知識及び技能の定着に結びついていると考えられる。

一方、②より、問題解決の方法について数学的に説明することについては課題がある。数学的に表現・処理されたものを事象と関連づけながら問題解決していくことや、その過程を数学的な表現を用いて説明することが、思考力、表現力、判断力等を育成する上で大切である。